

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画 3か年の評価・提案 (骨子案)

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成 28 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

平成 29 年 月

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 平成 28 年度の活動実績	5
	(1) 平成 28 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③調査部会（現地調査）	
	④広報・見える化部会	
4	横浜みどリアップ計画 3か年の評価、提案	10
	◆計画の体系	
	◆評価・提案の概要	
	◆各取組の柱のハイライト	
	(1) 取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	15
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる	20
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる	25
	施策 1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	
	施策 2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開	30
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	33
6	市民推進会議委員からのコメント	36
7	市民推進会議広報誌	40
	「みどリアップQ」（平成 28 年度発行分）	

1 はじめに

.....

.....

市民推進会議 進士座長からのメッセージ

.....

.....

2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画

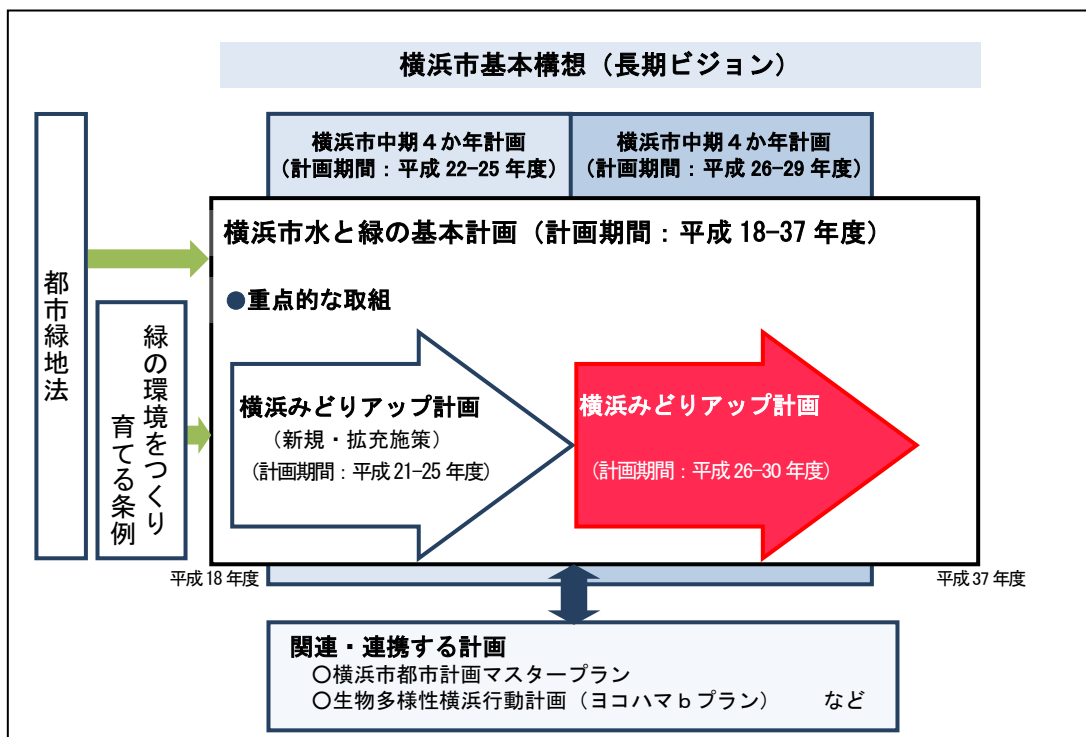
①位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。

この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は平成37年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を平成18年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、これまでの取組を強化・充実するための5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、この推進のための重要な財源として導入され、平成21年4月から計画が推進されました。

さらに、緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、「横浜みどりアップ計画」(計画期間:平成26-30年度)が策定されました。



②横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)の構成

平成26年度より、2期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑をつくる」を三つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度の指定による樹林地の担保量が増加、水田の保全面積が増加、市街地で緑を創出する取組が進展 など

2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全部管理など生物多様性に配慮した取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

3 市民と緑とのかかわりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など



取組の柱 1

市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

取組の柱 2

市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

取組の柱 3

市民が実感できる緑をつくる

街の魅力を高め賑わいづくりにつながる緑や地域の緑、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。



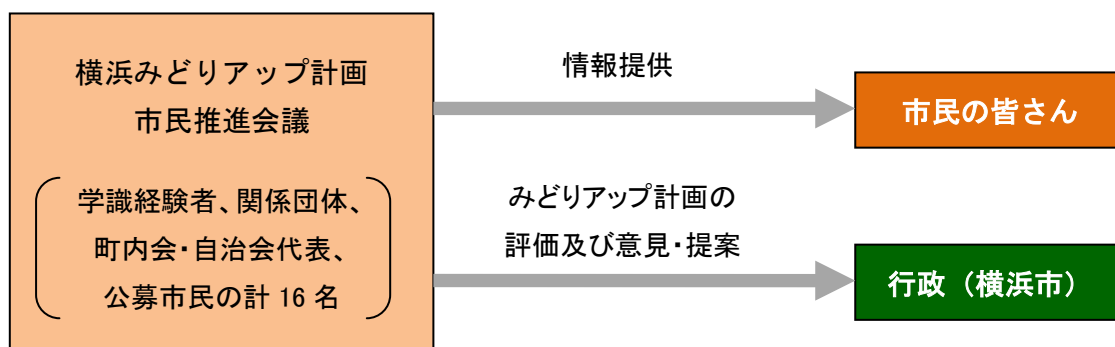
効果的な広報の展開

(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへの情報提供等をおこなうことを目的として、平成21年に設置され、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や各種部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案をおこなってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、2期目のみどりアップ計画についても、継続して活動することとなりました。

平成26年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。（〇頁に委員名簿を掲載）



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

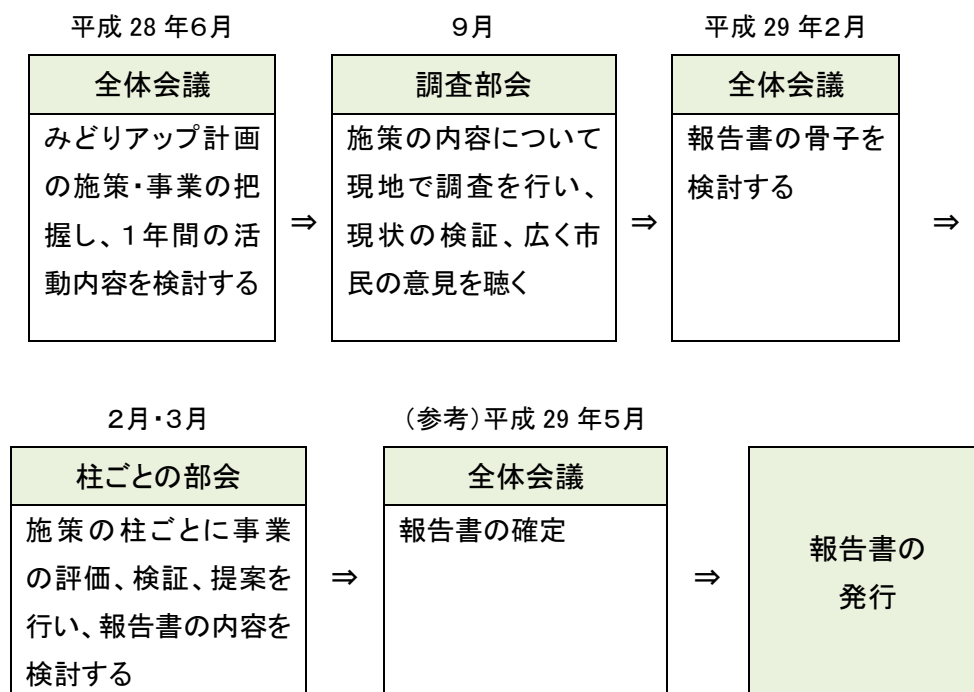
※附属機関：法律又は条例に基づき設置し、行政執行のために必要な審査、調査等をおこなう機関。会議において審議、協議した結果、意見を取りまとめたり市に提言等をおこなう。

3 市民推進会議 平成 28 年度の活動実績

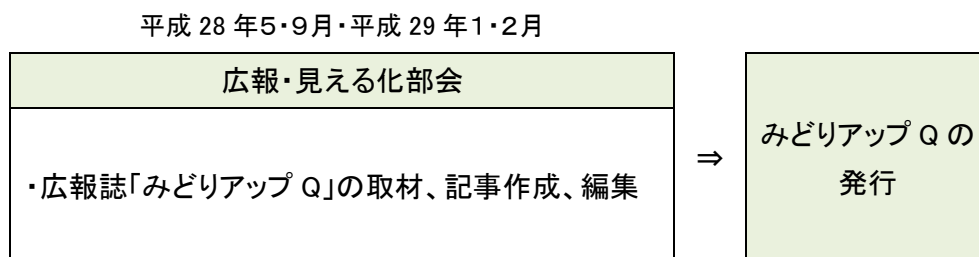
(1) 平成 28 年度の活動の概要

市民推進会議の活動は、みどりアップに対する評価・提案などをまとめた報告書の発行までの流れ、及び、市民への情報提供までの流れと、大きく2つに分けることができます。

①評価・提案をまとめた報告書の発行までの流れ



②市民への情報提供の流れ



(2) 活動の詳細内容

① 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換をおこないました。

第 24 回市民推進会議(平成 28 年6月9日)

- ・横浜みどりアップ計画平成 27 年度の事業実績及び平成 28 年度の事業内容について
- ・市民推進会議 平成 27 年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 平成 28 年度の取組について

第 25 回市民推進会議(平成 29 年2月6日)

- ・横浜みどりアップ計画の進捗状況について
- ・市民推進会議 平成 28 年度報告書について



市民推進会議 全体会議の様子

② 施策別専門部会

取組の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに、詳細に説明を受け、意見交換、提案検討をおこないました。

第9回「森を育む」施策を検討する部会(平成 29 年〇月〇日)

- ・横浜みどりアップ計画「森を育む」施策の評価・提案について

第9回「農を感じる」施策を検討する部会(平成 29 年〇月〇日)

- ・横浜みどりアップ計画「農を感じる」施策の評価・提案について

第9回「緑をつくる」施策を検討する部会(平成 29 年〇月〇日)

- ・横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を検討する部会



「農を感じる」施策を検討する部会



「緑をつくる」施策を検討する部会

③ 調査部会(現地調査)

<第16回調査部会「みどりアップを見に行こうツアー」>

日 時 平成28年9月17日(土) 午前9時30分～午後0時30分開催

参加者 委員10名、一般市民21名(応募者37名)

調査場所 地域緑のまちづくり 柿の木台地区(青葉区柿の木台)

もえぎ野ふれあいの樹林(青葉区もえぎ野)

恩田町の水田(青葉区恩田町)

(ア)「市民が実感できる緑をつくる」取組が実施されている地域緑のまちづくりを調査

緑化の整備を行った柿の木台地区を歩きながら、みどりアップ推進課による事業説明、柿の木台地区で地域みどりのまちづくりを行う「やもと農塾」会長による緑化活動の説明



「やもと農塾」が作製したベンチ付きのお花箱(木製プランター)に座りながら説明を聞く参加者



「やもと農塾」代表による説明

(イ)「市民とともに次世代につなぐ森を育む」取組が実施されている樹林地を調査

もえぎ野ふれあいの樹林を歩きながら、みどりアップ推進課による事業説明、もえぎ野ふれあいの樹林愛護会による維持管理内容の説明、質疑応答



もえぎ野ふれあいの樹林愛護会が説明を行っている様子



取組前



取組後

維持管理の取組によって多様な植物が戻ってきた斜面地

(ウ)「市民が身近に農を感じる場をつくる」取組が実施されている水田を調査

みどりアップ計画により保全した水田を歩きながら、北部農政事務所による事業説明、水利組合の方による水田で行う管理や活動内容の説明、質疑応答



恩田町の水田の畦（あぜ）道の踏査



各テーブルで行う市民推進会議委員と一般参加者の意見交換の様子

(エ)意見交換会

・「ハマッ子」直売所 四季彩館 交流施設にて、当日の調査内容について、一般参加者からの感想や質疑応答・意見交換

<参加者の主な意見>

- ・個人が保有しているだけでは荒れてしまう林を、市が入ってきれいに手入れをし、残していくことは良いと思った。
- ・横浜市にも自然豊かな田園風景が広がっていることに驚いた。
- ・横浜みどり税があることも知らなかったが、横浜市は緑を大切にしているという意識があるということ、市民みんなが知ってくれたら良いと思った。
- ・取組を行う地域の方々の熱意がとても感じられた。
- ・地域緑のまちづくりの緑化のランニングコストを全部まかなうのは、出し過ぎではないかと思う。地区センターで負担すべきことではないか、線引きがあやふやな点を感じた。

④ 広報・見える化部会

平成25年度までの「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、みどりアップ計画やみどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集をおこなっています。

広報誌は平成26年度から「みどりアップQ」として「濱RYOKU」からリニューアルし、平成28年度は第7～9号を発行しました。駅や主要な公共施設のPRボックスや、各区役所、土木事務所、公園事務所の公共施設で配布しています。

第29回広報・見える化部会（平成28年6月20日）

・みどりアップQ 第7号案について

第30回広報・見える化部会（平成28年9月9日）

・みどりアップQ 第8号について

第31回広報・見える化部会（平成28年11月24日）

・みどりアップQ 第9号について

第32回広報・見える化部会（平成29年2月〇日）

・横浜みどりアップ計画「効果的な広報の展開」の評価・提案について

○みどりアップQ第7号

《発行日》 平成28年7月

《発行部数》 21,000部

《テーマ》 飯島市民の森における森づくり



○みどりアップQ第8号

《発行日》 平成28年12月

《発行部数》 21,000部

《テーマ》 子ども達の米作り体験学習



9号

○みどりアップQ第9号

《発行日》 平成29年2月

《発行部数》 21,000部

《テーマ》 みどりアップを見に行こうツアー

※詳細については、○～○頁参照。「みどりアップQ」を添付しています。

4 横浜みどりアップ計画 3か年の評価、提案

市民推進会議では、平成26年度から28年度までの3年間に行われたみどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さんに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・検証をおこないました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さんが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・検証をおこないました。

◆計画の体系◆

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1 樹林地の確実な保全の推進	事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	●
施策2 良好な森を育成する取組の推進	事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり	●
	事業③ 森を育む人材の育成	●
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり	●

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全	●
	事業② 農とふれあう場づくり	●
施策2 地産地消の推進	事業③ 身近に感じる地産地消の推進	
	事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開	

取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	事業① 民有地での緑の創出	●
	事業② 公共施設・公有地での緑の創出	●
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げを醸成する取組の推進	事業③ 市民協働による緑のまちづくり	●
	事業④ 子どもを育む空間での緑の創出	●
	事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出	●

効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開	
--------------------	--

◆評価・提案の概要◆

...

各取組の柱のハイライト

3か年の取組状況について、1期目のみどりアップ計画が開始した21年度からの取組状況とあわせて振り返ります。



取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

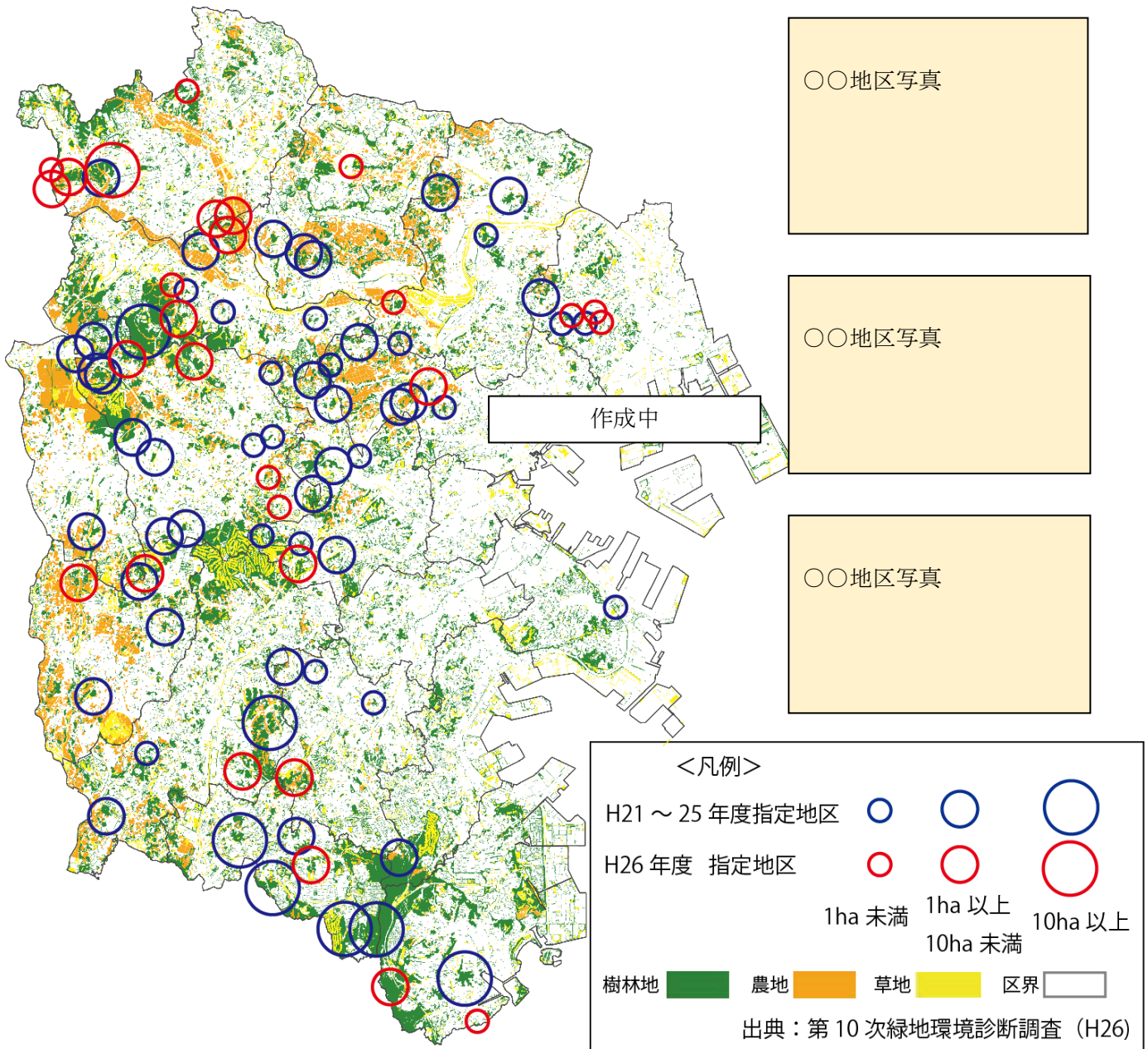
永続的な保全ができる特別緑地保全地区・近郊緑地保全地区は、約 300.4ha となっており、

.....

.....

.....

<特別緑地保全地区・近郊緑地保全地区の指定状況>



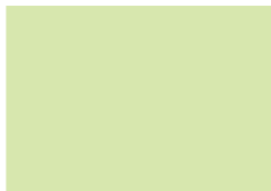
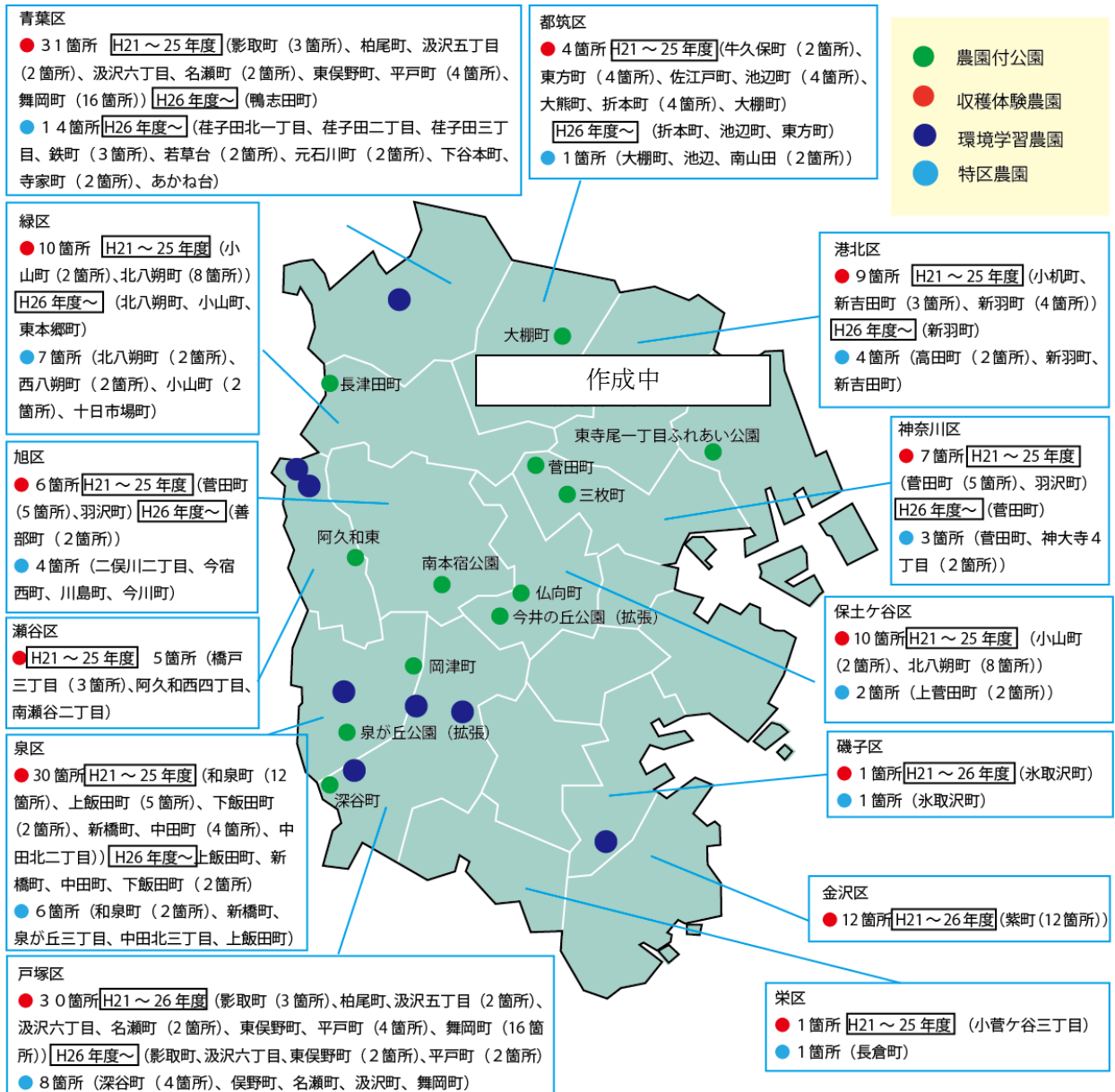


取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

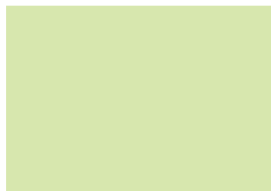
特区農園や農園付公園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、本格的な農作業が出来る農園付公園を整備するなど、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。.....

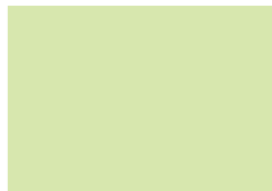
<農園の開設状況>



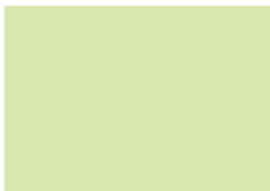
農園付公園



収穫体験農園



環境学習農園



特区農園



取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

35 地区で緑のまちづくりが進行中

28 年度末までの目標 34 地区を超える 35 地区でそれぞれの地域ごとの緑化計画が策定され、市内 35 地区において、様々な緑をつくる活動が行われました。・・・

・・・
・・・

<地域緑化計画の策定状況>

地域緑化計画の策定地区

● 平成 26 年度～策定

● 平成 25 年度までに策定

○○地区写真

○○地区写真

○○地区写真



都心臨海部の緑花の取組が進んでいます

多くの観光客が訪れる都心臨海部の公共施設を中心に緑や花による空間演出が進み、エリア全体の魅力づくりに貢献しています。

○○公園写真

(平成 27 年度完成)

○○公園写真

(平成 28 年度完成)

(1)取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

施策1 樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

◆事業概要(計画書から抜粋)

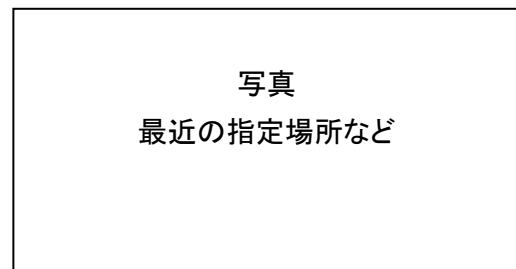
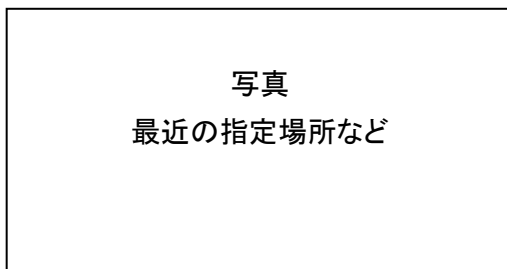
市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。そこで、緑地保全制度の指定により土地所有者への優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

◆実績

項目	28年度		3か年の 実績累計※	5か年の 目標
	目標	進捗状況※		
取組1	緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り			
新規指定面積	100ha	15.4ha	219.6ha	500ha
買取面積	21.7ha	7.2ha	48.3ha	108ha

※11月末時点



市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策1についての評価・提案

.....

施策2 良好な森を育成する取組の推進

事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり

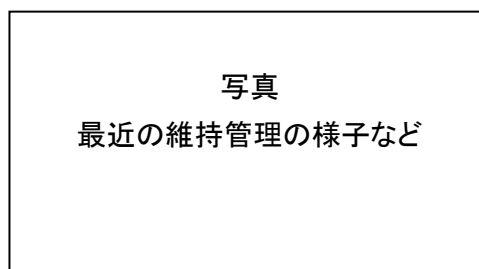
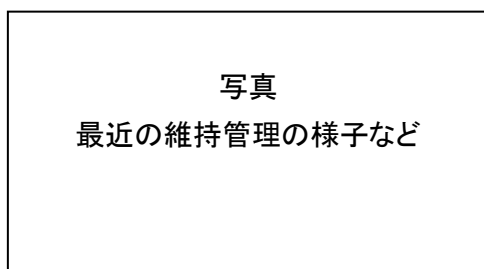
◆事業概要(計画書から抜粋)

樹林地の維持管理(森づくり)を行う際の技術指針である森づくりガイドライン等を活用し、生物多様性の保全、利用者の安全や快適性の確保、良好な景観形成など、森に期待される多様な役割に配慮した森づくりを推進します。また、緑地保全制度の指定を受けた土地を所有する方の維持管理負担を軽減するための支援を行います。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標	
	目標	進捗状況※			
取組2	森づくりガイドライン等を活用した森の育成				
森づくりガイドライン等を活用した維持管理の推進	・市民の森等	推進	124 か所	354 か所	推進
	・まとまった樹林のある都市公園	推進	9か所	34 か所	推進
保安全管理計画の策定の取組	・市民の森等	3か所	3か所策定中	9か所(策定中含む)	15 か所
	・まとまった樹林のある都市公園	4か所	4か所策定中	12 か所(策定中含む)	10 か所
取組3	指定された樹林地における維持管理の支援				
樹林地保全制度に指定している民有樹林地の維持管理の助成(交付受付)	130 件	84 件	319 件	650 件	
取組4	生物多様性に配慮した防火性・安全性の向上				
市民の森等の斜面地での生物多様性に配慮した法面整備	4か所	竣工: 2か所 施工中: 1か所 設計済: 1か所 設計中: 1か所	施工中: 1か所 整備: 5か所	10 か所	
取組5	間伐材の有効活用				
森づくり活動団体へのチップの貸出し	推進	申込2件	33 件(貸出予定含む)	推進	

※11月末時点



事業③ 森を育む人材の育成

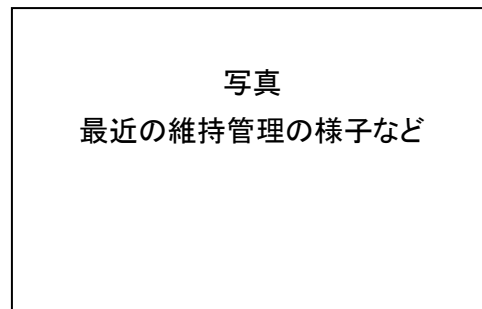
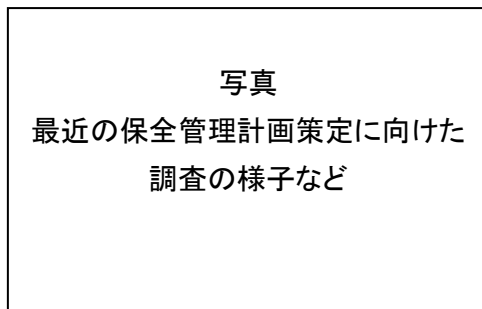
◆事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修の実施や、ニュースレター等を活用した森づくりに関する情報発信を行います。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に対する助成や、道具の貸出し、専門家の派遣といった支援を行います。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標	
	目標	進捗状況※			
取組 6	森づくりを担う人材の育成				
研修の実施	推進	7回実施	37回実施	推進	
ニュースレターの発行	推進	2回発行	10回発行	推進	
取組 7	森づくり活動団体への支援				
森づくり活動団体への支援	樹林地	延べ 10 団体	延べ 31 団体	延べ 76 団体	延べ 50 団体
	公園	延べ 10 団体	延べ 8 団体	延べ 24 団体	延べ 50 団体

※11月末時点



市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策2についての評価・提案

.....

施策3 森と市民をつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

◆事業概要(計画書から抜粋)

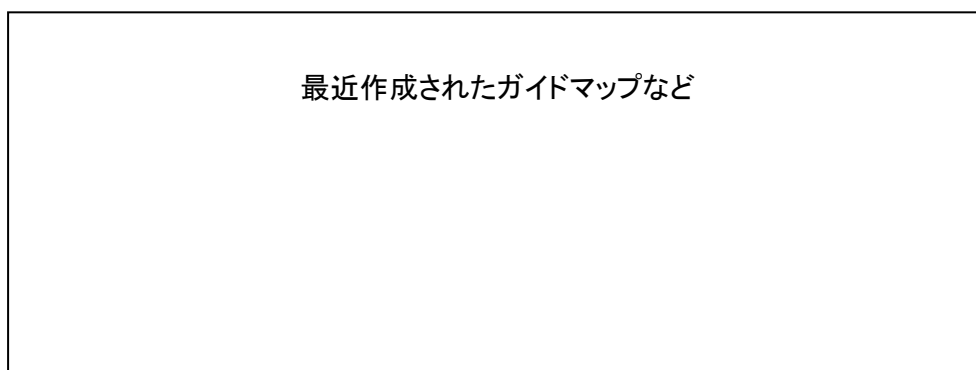
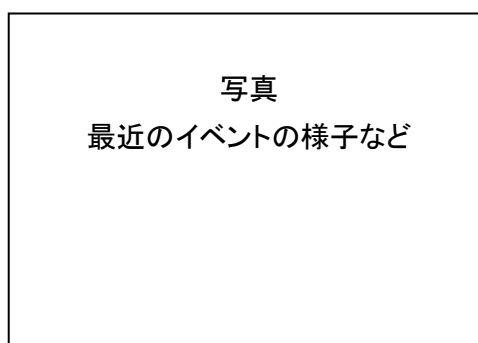
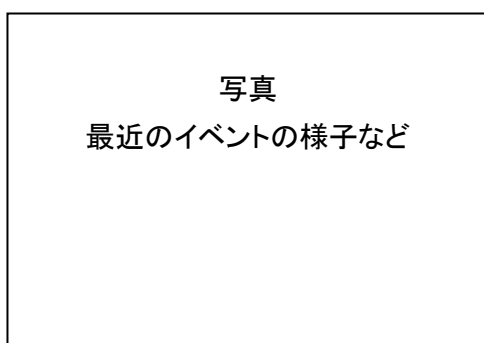
森に関わる市民の裾野を広げるため、森に関するイベントや講座の開催などにより、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、平成25年度までに設置したウェルカムセンター(5館)を活用し、多くの市民が、横浜の森について理解を深めることができるような情報発信を行います。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※1	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組8	森の楽しみづくり			
イベント等の実施	36回	63回	302回	180回
取組9	森に関する情報発信			
ガイドマップの作成	推進	2地域で作成中	7地域 (作成中含む)	新規に指定された市民の森等を対象に作成
ウェルカムセンターの運営 ※2	推進	推進	推進	推進

※1:11月末時点

※2:森の生き物情報の発信や自然体験行事、環境学習の提供などを実施しています。



市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策3についての評価・提案

.....

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500 字程度)

(2)取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

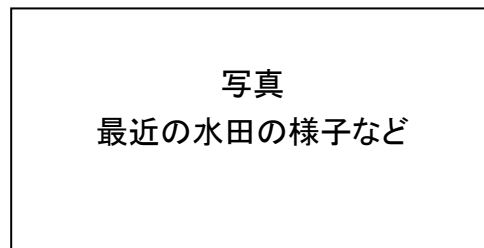
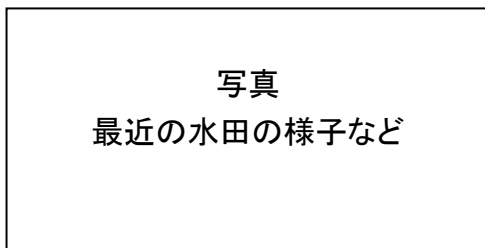
◆事業概要(計画書から抜粋)

集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、水稻作付を10年間継続する水田への奨励金交付や、地域の団体に共同利用する管理用設備の整備支援、意欲ある農家・NPO法人などが農地を安定的に利用できるよう農地を長期間貸し付ける取組などを推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組10	水田の保全			
水田保全承認面積	累計 122ha	新規申出 1.9ha	累計 122ha	累計 125ha
水源確保施設整備	2か所	2か所	4か所	10か所
取組11	特定農業用施設保全契約の締結			
制度運用	制度運用	申請受付 14件	40件 (受付のみ含む)	制度運用
取組12	農景観を良好に維持する取組の支援			
良好に維持されている農地の面積 (集団的農地保全団体支援事業)	721.0ha	723.3ha	680.0ha	723.3ha
田園景観保全水路整備	1地区	3地区	6地区	5地区
共同利用設備の整備	5件	2件	5件	25件
取組13	多様な主体による農地の利用促進			
長期貸付開始農地	新規 2.0ha 累計 79.0ha	新規 2.4ha 累計 79.4ha	新規 17.1ha 累計 79.4ha	累計 80.0ha

※11月末時点



事業② 農とふれあう場づくり

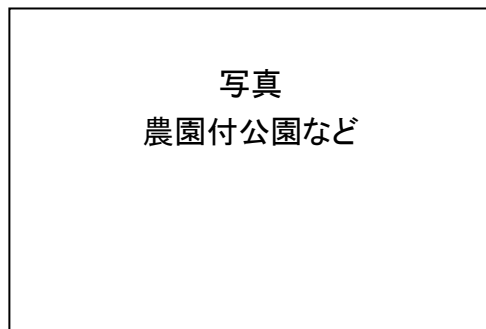
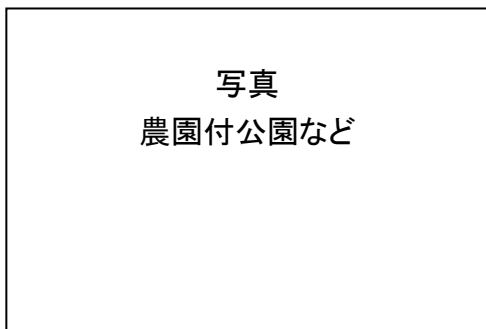
◆事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験農園や本格的な農作業ができる市民農園(栽培収穫体験ファーム、農環境学習農園、特区農園)の開設支援のほか、土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買取るなどして、農園を主とした都市公園の整備を進めます。また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里での取組の推進や、市内の生産現場や直売所などの流通現場を巡るツアーの開催など、市民が農とふれあう機会を提供します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 14	様々なニーズに合わせた農園の開設			
収穫体験農園の開設支援	2.5ha	1.1ha	3.6ha	12.5ha
市民農園の開設支援	1.2ha	1.4ha	6.4ha	6.0ha
農園付公園の整備	1.3ha(3か所)	整備中:1.3ha (3か所) 設計中:1か所	14.1ha (整備中含む)	7.3ha
取組 15	市民が農を親しみ支援する取組の推進			
ふるさと村・恵みの里の農体験教室など	100回	実施承認済 80回	263回 (実施予定含む)	500回
あぐりツアー開催	4回	3回	9回	20回
農ある地域づくり協定	2件	1件	3件	4件
農体験講座	5回	5回	15回	25回

※11月末時点



市担当者からのコメント(〇〇課)
・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策1についての評価・提案

.....

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に感じる地産地消の推進

◆事業概要(計画書から抜粋)

地域でとれた農畜産物などを販売する直売所の整備等の支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなど、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関わる情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組16 地産地消にふれる機会の拡大				
直売所の整備・施設拡充の支援	10件	9件	24件	52件
青空市運営支援	5件	5件	14件	25件
緑化用植物の生産・配布	23,500本	24,104本	77,745本	125,000本
情報発信・PR活動	推進	推進中	推進	推進

※11月末時点

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

◆事業概要(計画書から抜粋)

市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 17	地産地消を広げる人材の育成			
はまふうどコンシェルジュの活動支援	20件	25件	61	100件
フォーラムの開催	1回	実施に向け調整中	3回 (調整中含む)	5回
取組 18	市民や企業等との連携			
企業等との連携	10件	11件	24件	50件
ビジネス創出支援	7件	5件	10件	25件
学校給食での市内産農畜産物の利用促進	推進	一斉供給(7月米、11月ダイコン)、はま菜ちゃん料理コンクール本選	推進	推進

※11月末時点

写真
最近の直売所の様子など

写真
企業等との連携の実績が
わかる写真など

市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策2についての評価・提案

.....

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500 字程度)

(3)取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

街の魅力を高め賑わいづくりにつながる緑や地域の緑、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進

事業① 民有地での緑の創出事業

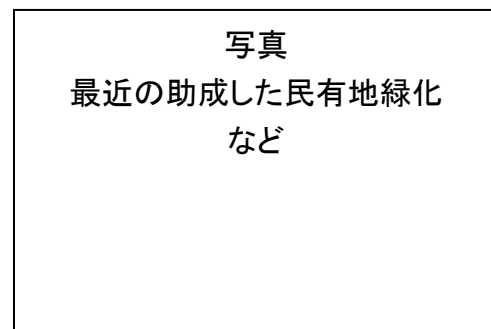
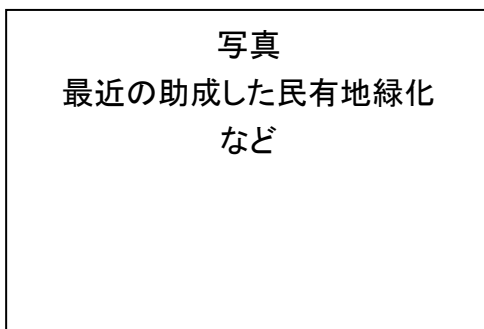
◆事業概要(計画書から抜粋)

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や事業者の取組が不可欠です。多くの市民が目にする場所や効果的な場所での緑の創出に対する助成、地域で親しまれている名木古木の指定や、その維持管理に必要な費用の助成など、緑の創出・保全に積極的に取り組む市民・事業者を支援します。

◆実績

項目	28年度		3か年の 実績累計※	5か年の 目標
	目標	進捗状況※		
取組 19	民有地における緑化の助成			
緑化の助成	13件	3件	13件	65件
取組 20	建築物緑化保全契約の締結			
制度運用	制度運用	制度運用	制度運用	制度運用
取組 21	名木古木の保存			
名木古木の保存	推進	推進	推進	推進
取組 22	人生記念樹の配付			
苗木の配布	8,000本	7,476本	23,093本	40,000本

※11月末時点



事業② 公共施設・公有地での緑の創出

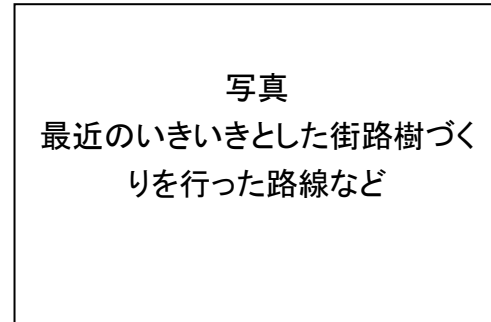
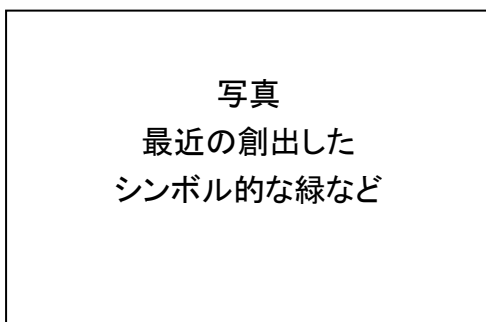
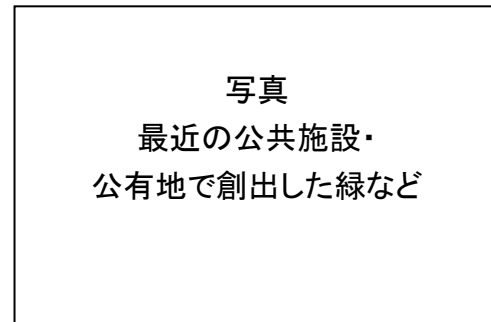
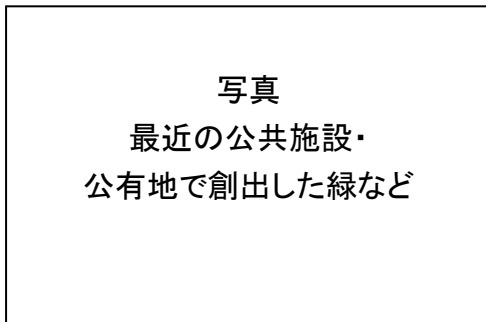
◆事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民が利用する地域の公共施設から率先し、市民が実感でき、生物多様性の向上や地域の良好な景観形成につながる緑を創出します。また、緑の少ない区などを対象にみどり豊かな公園を整備するほか、市民が目にする機会の多い街路樹の計画的なせん定などにより街路樹を良好に育成するための取組を拡大します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 23	公共施設・公有地での緑の創出・管理			
緑の創出	15 か所	実施中	推進	58 か所
創出した緑の維持管理	推進	推進	推進	推進
取組 24	公有地化によるシンボリックな緑の創出			
緑の創出	事業推進 3か所	事業推進2か所 事業実施に向けた調整中2か所	実施中	事業推進 5か所
取組 25	いきいきとした街路樹づくり			
街路樹の計画的なせん定	18 区で推進	18 区で推進	18 区で推進	18 区で推進

※11月末時点



市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策1についての評価・提案

.....

施策2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進

事業③ 市民協働による緑のまちづくり

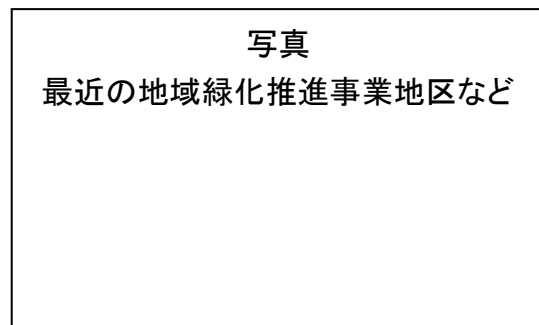
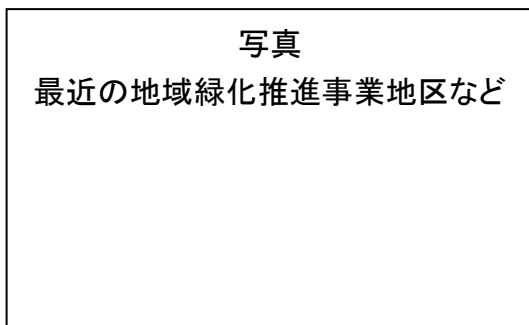
◆事業概要(計画書から抜粋)

地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市民との協働で進めます。また、平成25年度までに地域緑化計画を策定した地区については、継続して整備への支援を行います。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 26	地域緑のまちづくり			
地域緑化推進事業	28地区 (新規8地区、 継続 20地区)	20地区 (新規地区:協定 締結予定9地区)	35地区 (新規地区:19地区 (締結予定含む))	46地区 (うち新規:30地区)

※11月末時点



事業④ 子どもを育む空間での緑の創出

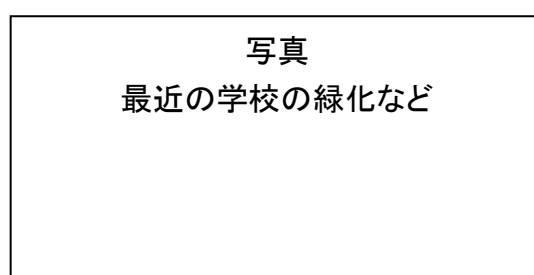
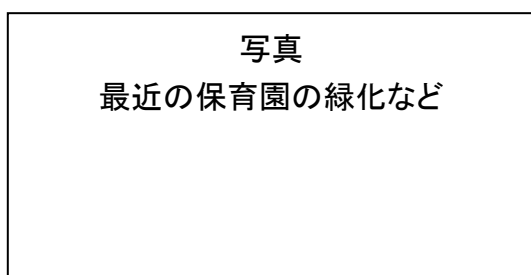
◆事業概要(計画書から抜粋)

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、園庭・校庭の芝生化など、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 27	保育園・幼稚園・小学校での緑の創出			
緑の創出	20 か所	実施中	推進	100 か所
芝生等の維持管理	推進	推進	推進	推進

※11月末時点



事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出

◆事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部において、来訪者の回遊性向上や生物多様性確保の観点から、エリア内での緑のネットワーク形成に寄与することも念頭に、公共施設を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力形成・賑わいづくりにつなげます。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績累計※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 28	都心臨海部の緑花による賑わいづくり			
都心臨海部の緑花	推進	推進	推進	推進
緑花の維持管理	推進	推進	推進	推進

※11月末時点

写真
最近の都心臨海部の
緑花事例など

写真
最近の都心臨海部の
緑花事例など

市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない
実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

◆施策2についての評価・提案

...

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500 字程度)

(4) 効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

◆事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、広報よこはままでの特集や、自治会町内会などを通じたPRや実績報告など、様々な媒体・手法を用いて効果的に市民へ広報を行い、理解を深めるとともに、緑に関わる活動に参加するきっかけとなる機会を提供します。

◆実績

28年度	
目標	主な実績(11月末時点)
取組 29	計画の周知や実績報告
広報よこはまの特集ページの利用	広報よこはま 9月号の特集ページ記事掲載
実績概要リーフレットの作成・配布	・27年度実績リーフレットの発行・配布、自治会町内会回覧(6月)
交通広告や各種メディアを活用したPR	・パートラッピングバス、はまりん号等交通広告実施(9~11月) ・アニメーションを活用したPRの推進(HAG横浜賞環境創造部門での作品選定)
市の工事等の現場に統一的な看板等設置	市の工事等の現場に統一的な看板等を設置(実施中)
公共施設などで横断幕等によるPR	公共施設などで横断幕等によるPR(実施中)
PR用動画の活用	イベントでの放映、動画を編集したPRCM(15秒版・30秒版)を制作・放映
マスコットキャラクターの活用	広報印刷物等におけるマスコットキャラクターの活用促進
イベント出展によるPR	イベントでのブース出展、クラフト教室の実施



パートラッピングバス



鉄道内の中吊り広告



制作したアニメーション



イベントでの PR 動画の活用

写真
工事等の現場の看板など



マスコットキャラクター
「横浜みどりアップ葉っぱー」による広報



イベントでのブース出展



クラフト教室の実施



27 年度実績リーフレット



広報よこはま特集ページ

市民認知度の調査結果など

(集計・分析中)

◆施策についての評価・提案

.....

市担当者からのコメント(〇〇課)

・読み手に興味を引きやすく、また事業への関心が高まるよう、通常の事業報告書では出てこない実績や波及効果、地元の声等を中心に記載

広報・見える化部会 部会長コメント

(300～500 字程度)

5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿

(50音順・敬称略)

	氏名	区分	備考
	相川 健志	公募市民	
	網代 宗四郎	関係団体	横浜市町内会連合会 委員
	東 みちよ	公募市民	
	池田 信彦	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
	大竹 斎子	公募市民	
	加茂 千津子	公募市民	
	清水 靖枝	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
座長	進士 五十八	学識経験者	福井県立大学 学長
	関水 金作	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
副座長	蔦谷 栄一	学識経験者	株式会社農林中金総合研究所 客員研究員
	長瀬 里佳	公募市民	
	野路 幸子	関係団体	元横浜市中央農業委員会委員
	望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
	靱山 功	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
	若林 史郎	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

平成 29 年 2 月

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
東 みちよ	公募市民	
加茂 千津子	公募市民	
清水 靖枝	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
関水 金作	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

部会長

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
相川 健志	公募市民	
大竹 斎子	公募市民	
蔦谷 栄一	学識経験者	株式会社農林中金総合研究所 客員研究員
野路 幸子	関係団体	元横浜市中心農業委員会委員
粂山 功	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事

部会長

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
網代 宗四郎	関係団体	横浜市町内会連合会 委員
池田 信彦	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
長瀬 里佳	公募市民	
若林 史郎	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

部会長

広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

部会長

氏 名	区 分	備 考
相川 健志	公募市民	
東 みちよ	公募市民	
大竹 斎子	公募市民	
加茂 千津子	公募市民	
長瀬 里佳	公募市民	
望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきた中で感じたことや、生活の中で日ごろ各委員が感じたことについて、委員一人ひとりからのコメントを紹介します。

相川委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）
（300 文字程度）

網代委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

池田委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

大竹委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）
（300 文字程度）

加茂委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）
（300 文字程度）

清水委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

関水委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

長瀬委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）
（300 文字程度）

野路委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

勅山委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

若林委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）
（300 文字程度）

7 市民推進会議広報誌

「みどりアップQ」（平成28年度発行分）

第7号 平成28年9月発行

飯島市民の森における森づくり

第8号 平成28年12月発行

子ども達の米作り体験学習

第9号 平成29年3月発行

みどりアップを見に行こうツアー

みどりアップQ

緑×まち×未来を考えよう

Q なんで森の木を伐るの？ 元気で安全な森づくり

森にはいろいろな機能があります。

雨を地面に吸収し、ゆっくり流すことで洪水を防いだり、木の根が地面を支えることで土砂の流出を防いだりする、防災・減災機能もそのひとつ。

一方で、まちの中の森は、人の生活との距離が近いからこそ、倒木や土砂崩れなどが起きない強い森であってほしいもの。森の木を伐るのも、強い森づくりのための工夫なのです。飯島市民の森では、森の再生力を生かした元気で安全な森づくりが始まっています。



伐^きって、育てる 昔ながらの新しい森づくりが 始まっています

横浜市の市民の森、第一号として愛されてきた飯島市民の森では、いま、新しい森づくりが始まっています。暗い森から明るく生きものが豊かに育まれる森へ。まちの安心が芽生えた森づくりをレポートします。

取材 東みちよ 委員
イラスト 中村明世(市職員)

森の再生力 「^{ほうがこうしん}萌芽更新」

栄区本郷台にある飯島市民の森。この森を訪れると、急斜面にポコポコと残る、木の切株が目につきます。

「なぜ木を伐採したの？」

そう思う人もいるかもしれませんが、これは萌芽更新という森の管理手法によるもの。大きくなった木を伐り、切り株から出た芽を育てることで、木や森を若返らせるものです。

「以前は、鬱蒼^{うっさう}と木が生い茂り、外から斜面が見えないほどでした。でも今は明るい森になって、みなさんと一緒に安心して市民の森を散策できます」

そう語るのは飯島市民の森愛護会の飯島さん。

みどりアップ計画で、この森の再生力を生かした、新しい森づくりが始まっています。



(左から)飯島せせらぎ愛護会の榑さん、飯島市民の森愛護会の飯島さん、飯島せせらぎ愛護会の菅山さん、市民の森管理者の中村さん



2～3月に作業した木。梅雨明けには萌芽し、緑がよみがえります(6月撮影)

地層も考えた、安全対策

昔は、木を薪に使うなど、こまめに木を伐っていました。今は、手つかずの森が多くなってきています。

「木が大きくなりすぎると、枝や葉が重くなり、強風などで、根ごと倒れやすくなります。市の南部地域では、硬い地層の上に

薄い表土の層がのっている場所が多く、木は深くまで根を張ることができません。そのため、急斜面地の森では倒木や土砂崩れへの注意が必要です」と、樹木管理を計画してきた、横浜市南部公園緑地事務所の職員、中村さんは話します。

安全対策として、コンクリートの土留めなどが必要な場合もあ

飯島市民の森
萌芽更新前の様子



萌芽更新後の様子





芽が出て
いますね。

斜面の高木の伐採
や枝打ちをした造
園会社の皆さん。
高度な技術が必要
です



2年後にはこのよう
な若い枝が出てきま
す(萌芽更新から2年
たった場所を撮影)



ります。しかし、飯島市民の森では、まず大きくなり過ぎた斜面の木の萌芽更新をすることから始めました。倒木の危険性も減り、伐採した切株から新たな芽が出て若い木が育つことで、森の中が明るくなり、草が生え、土が流れるのを抑えることができます。その結果、森は元気で強い森になるのです。なお萌芽更新にあたっては、専門家の意見を取り入れ、新しく切り株から出た芽が笹で囲まれないように少し高い位置で伐るなど、木によって伐り方を工夫しています。平成27年度は、95%が萌芽し、特に萌芽の早い桜の木は、伐った株からすでにぐんぐん芽が伸びていました。

里山の風景を、子どもたちに残したい

「昔は、木を伐ることが生活の一部になっていたから、森はきちんと管理されていたんです。それに、昔は川や田んぼがあって、池もあったんです」

飯島せせらぎ愛護会の椿さんは、昔からの森の生活を知る地元民。子どもの頃、昭和30年代頃までは、お祖父さんが薪に使う木を山から伐っていたといいます。薪を使わなくなってから数十年。すっかり手入れされなくなったことで、暗い森へと変化してしまいました。

愛護会発足当初から森を見守ってきた飯島市民の森愛護会前会長の故・川井啓介さんは「森を環境教育に役立てたい。ふるさとの意識を育みたい」と熱く語っていたそうです。

ここにはもう川も田んぼもありませんが、山の湧き水を生かしたせせらぎ緑道が、小さな水辺の楽しみを残しています。里山の風景は変化してきましたが、それでもこうして自然豊かな市民の森として残されてきたことが、地域の心のふるさとを育む場にもなっています。

川井さんの遺志は、今ものどかな里山の風景に受け継がれ、未来へと続いています。

ここにみどり税

森ごとの保全管理計画づくり、木の伐採や草刈りなどの森の維持管理費

Q 里山は手入れをしないとイケないの？

A 昔の森は、木を定期的に伐って燃料の薪や炭にしたり、落葉を田畑の堆肥にしたりと、農家の生活や農作業に欠かせないものでした。このような森や田畑、水辺が一体となった環境を「里山」といいます。薪の代わりにガスや電気が使われるなど、生活が変化するなかで、里山の環境も変化していきました。

里山の環境が変わり、里山に生息している動植物が昔より少なくなってきています。生き物が豊かな美しい里山をとりもどすためには、人が森を手入れし、管理していく必要があります。



田んぼは、ビオトープ。

文 相川健志 委員

第1回 オケラってすごい！ ～飛ぶ・泳ぐ・潜る～

童謡『手のひらを太陽に』にも出てくるけど、土の中で生活しているので普段あまり目にする事のないオケラ。実は田んぼや畑など身近にいることが多い。オケラのすごさを少し紹介。

モグラのように地面にトンネルを掘ることができる、バッタの仲間なので鳴くこともできるし、羽があって飛ぶことができる。さらに泳ぐ事もできる。幼虫がオケラの卵を食べるミイデラゴミムシと共生したり、オケラのトンネルは、耕作地の土づくりに貢献してくれる。田んぼの近くで耳をすませば、ジィ〜っというオケラの声が聴こえるかもしれない。

◎このコーナーについて

田んぼはお米をつくる場だけではなく、食育や環境教育、治水、景観の保全、生き物のすみかなど、人にとっても生き物にとっても大切な場所。そんな田んぼの魅力を、田んぼの生き物博士がご紹介します。



オケラ(写真:環境科学研究所)

前足は穴を掘るためにモグラみたい

森とわたしをつなぐ場所 ウェルカムセンターに行こう

第4回

寺家ふるさと村 四季の家(青葉区寺家町414)

昔ながらの横浜の田園風景が残る寺家ふるさと村にある、寺家ふるさと村四季の家。ここでは、寺家の農業や自然についてのパネルや標本の展示、市民の森・ふるさとの森等の散策情報の紹介、野草や野鳥、昆虫などの観察会のほか寺家ふるさと村を紹介するガイドツアーを行っています。



四季の家



寺家ふるさと村

総合案内所「四季の家」

住所:〒227-0031 横浜市青葉区寺家町414

電話:045-962-7414 FAX:045-962-6321

開館:9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日:火曜日(火曜日が祝日の場合はその翌日以降最初の平日)、
12月29日～1月3日

アクセス:東急田園都市線青葉台駅から東急バス30系統「四季の家」
徒歩1分または31系統「鴨志田団地」徒歩3分

10月・11月はみどりアップ月間

10月・11月は、横浜の「みどり」を実感する「みどりアップ月間」です。市民の森での散策や収穫体験農園での農体験、緑に関するイベントへの参加などを通じて、横浜の農や緑の恵みを感じてみませんか？

※詳細は10月以降に下記ホームページで随時お知らせします。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



横浜みどりアップ 葉っぴー



みどりアップ健康ウォーキング

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議



みどりアップQとは？

みどりアップQの"Q"は「みどりアップをもっと知る、なぜなに? (クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第7号

(市民推進会議広報誌 第27号)平成28年9月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ 横浜市環境創造局政策課(事務局)
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
Tel:045-671-4214 Fax:045-641-3490
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

楽しい？
ちよっと大変？
子ども達の農体験

田んぼは、お米をつくるだけじゃなく、
子ども達にとっては、農体験を通して
自然や、自然を育む大切さを知る
学びの場にもなっています。
そんな学びを楽しむ、小学校の取組を取材しました。
次世代へつなぐ活動が広がっています。



米づくりに挑戦

地面がぐち
るうちにやわ
らかかった

みたけっ子田んぼ

みたけ台小学校の5年生100名は、年間を通して農家の村田範雄さんと米づくりに挑戦しています。
代かき、田植え、ヒエ抜き、稲刈り、藁細工、もちつき……。

田んぼの教室で、子どもも先生も、いろいろなことを学びます。

みたけっ子田んぼでの、子ども達の活動をレポートします。

取材 加茂千津子 委員
長瀬里佳 委員

緑豊かなまち、青葉区

みたけ台小学校のある青葉区は、横浜北部にある緑豊かなまち。約50年前に田園都市線が開通し、住宅街としてまちは発展してきました。その一方で、田んぼの面積は横浜18区の中で1番大きく、畑も2番目。谷本川、恩田川沿いには田んぼが多くあり、谷戸田もあります。

市内には、地元の農家さんの「環境学習農園」で、米づくりや野菜づくりを体験している小学校がたくさんあります。みたけ台小学校でも、保護者や地域の方のサポートのもと、5年生が学校の近くにある「みたけっ子田んぼ」で農家の村田さんと米づくりの体験学習をしています。

みたけっ子レポート その2

田んぼで聞いてみよう

本やパソコンで米づくりについて調べた子ども達。それでもわからないことは、観察会で直接村田さんに質問しました。「水不足に備えてどんなことをしている?」「米づくりに害を与えているのは?」「米づくりに大切にしていることは?」

「太陽に向かってまっすぐ伸びている」と自分達で植えた稲を観察する子ども達。収穫の日が待ちきれないようです。



田んぼに触れて調べたことを確認します

みたけっ子レポート その1

まずは、田んぼへいってみよう

「授業がなければ田んぼのある所まで来ることはなかった」という子や、畦道を歩くことに戸惑う子がいるほど、田んぼはなじみのない存在。そのため、最初に教わることは、田んぼの場所や広さを確認すること。田んぼとの「初めまして」から授業が始まります。

今では「あのへんは私達が植えたの」「あそこは僕達」と目印のない苗を指差して、子ども達はうれしそうに教えてくれます。



代かきでは泥んこになりながら土をかきならします



暑さに負けずヒエ抜き

みたけ米 農事ごよみ ～みたけっ子田んぼでの子ども達の一年の作業～

春

みたけっ子
田んぼとの出会い

水路掃除

夏

代かき
(田んぼに水を張り
土をかきならす)

田植え

観察会

ヒエ抜き
(田んぼから雑草の
ヒエを抜く)

やぐちでやっていた
 らかなくなりました
 です。



最初は、少しいやだった
 けど、やってみると、とても楽しかった
 です。

黄金色の稲穂に大満足



かかしづくり大成功

みたけっ子レポート その3

見て、触れて、子どもも大人も一緒に考えよう

田んぼから雑草のヒエを抜く作業は、まず、ヒエと稲の見分け方を知るところから。これが難しいのです。子どもも大人も、見て、触れて、真剣な様子。子ども達は「難しい」と言いながらも、どんどん田んぼへ入り、一生懸命ヒエを抜いていました。

みたけっ子レポート その4

待ちに待った、収穫の日

鎌の使い方をしっかり教わったあと、いよいよ収穫。汗を流しながら刈り取る様子は真剣そのものです。前日の雨でぬかるんだ泥に足をとられながら、一株一株しっかり刈り取っていきました。

「楽しかった」「愛情を込めて育てたからおいしいお米になると思うよ」と子ども達。保護者の方々は、この日も作業のサポートをしてくださっていました。

村田さんが米作りに
 かける思いがよく伝わりました。

地域の子どもを地域が育てる

村田さんは、みたけ台で18代続く農家さんです。この10年間で約2,000人の子どもの農体験に携わってきました。村田さんの話からは、この恵まれた農のある環境をこれからも守り育てたいという思いが伝わってきます。

「大人になってこの経験を思い出した時に、自分達はあんなことができたんだなと感じてもらえたら」と村田さん。地域の子どもみんなに農業の話ができること、米作りを知ってもらえること、田んぼへ入るマナーを知ってもらえることが嬉しそうです。地域の子どもを、地域が育てる。そしてその子ども達が大人になって、次世代へ伝えていくのです。



村田範雄さん

ここにみどり税

水稲作付を10年間続けることを条件に水田保全奨励金が交付されます。

秋

観察会
 かかしたて

稲刈り

脱穀
 (稲穂から
 籾をはずす)

冬

藁細工

収穫祭
 もちつき

発表会
 (1年間の体験を
 子ども達が発表)

※この活動は農家の指導のもと、学校教育の一環として行っています。土地所有者の許可なく、田んぼや畦道には入れません。

よこはまで農体験しよう

果物のもぎとりや野菜の収穫体験、米づくりなど、個人でも気軽に農体験ができる場所が、横浜にはたくさんあります。ここでご紹介するふるさと村、恵みの里は、昔ながらののどかな田園風景の中で農体験や味噌づくりなどの農産加工体験が楽しめます。

◆寺家ふるさと村 四季の家(青葉区寺家町414) (加)
TEL 045-962-7414 FAX 045-962-6321

◆舞岡ふるさと村 虹の家(戸塚区舞岡町2832) (収)(加)
TEL 045-826-0700 FAX 045-826-0749

◆田奈恵みの里(青葉区田奈町ほか) (米)(収)(加)
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488(北部農政事務所)

◆都岡地区恵みの里(旭区都岡町ほか) (米)(収)(加)
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488(北部農政事務所)

◆新治恵みの里(緑区新治町ほか) (米)(収)(加)
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488(北部農政事務所)

◆柴シーサイド恵みの里(金沢区柴町及び長浜) (収)
TEL 045-785-6844 FAX 045-788-8588(JA横浜柴農園管理事務所)

※施設や時期によってイベント内容が異なるので、それぞれのホームページでご確認下さい。

- (米) 米づくり体験あり
- (収) 果樹のもぎとり・野菜等の収穫体験あり
- (加) 農産加工体験あり



うどんづくり教室



さつまいも掘り

ふるさと村・恵みの里のほかにも、区画貸し農園や農家の指導付きの農園、収穫だけを楽しむ農園など、様々な農を楽しむ場があります。

よこはまで農体験



田んぼは、ビオトープ。

文 相川健志 委員

第2回 田んぼとアカガエル ～冬の田んぼは命のゆりかご～

最近あまり見ることがなくなったニホンアカガエル。ニホンアカガエルは、アマガエルやヒキガエルなどより一足早く産卵します。市内では、2月上旬～3月上旬に、ゼラチン質にくるまれた卵を500～800個ほど水中に生みます。

市内のある公園では、アカガエルが産卵できるよう、復元した水田で冬場も水をためています。このような少しの工夫で、田んぼはアカガエルの子育てのための大切な場所“命のゆりかご”となることもあります。



このコーナーについて

田んぼはお米などつくる場だけではなく、食育や環境教育、治水、景観の保全、生き物のすみかなど、人にとっても生き物にとっても大切な場所。そんな田んぼの魅力を、田んぼの生き物博士がご紹介します。



みどりアップ計画を 動画で紹介しています

みどりアップ計画の取組をウェブ動画でご覧いただけます。



横浜みどりアップ計画 PRビデオ

QRコード



横浜みどりアップ 葉っぴー

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ
http://www.city.yokohama.lg.jp/
kankyo/midoriup/



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議



みどりアップQとは？

みどりアップQの“Q”は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第8号

(市民推進会議広報誌 第28号)平成28年12月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ 横浜市環境創造局政策課(事務局)
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
Tel:045-671-4214 Fax:045-641-3490
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

